

# 再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
 担当課長名：中島 威夫

事業名	一般国道6号 常磐バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：福島県いわき市勿来町四沢 至：福島県いわき市平下神谷				延長	27.7km
事業概要	国道6号は、東京を起点とし、土浦、水戸、いわきの各市を経て仙台に至る総延長390kmの主要幹線道路で、浜通り地方の産業・経済・文化の交流を支える重要な幹線道路である。 常磐バイパスは、いわき地域の拠点間の交流促進や国際港湾小名浜港へのアクセス性向上、国道6号の隘路区間の解消及び交通混雑緩和、沿道環境の改善を目的とする道路である。					
S41年度事業化	S50年度都市計画決定	S43年度用地着手	S44年度工事着手			
全体事業費	約1,000億円	事業進捗率	81%	供用済延長	7.4km	
計画交通量	41,800台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.8 (残事業) 3.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 237/1,798億円 事業費: 157/1,678億円 維持管理費: 80/120億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 882/4,960億円 走行時間短縮便益: 847/4,591億円 走行費用減少便益: 1/204億円 交通事故減少便益: 34/166億円	基準年: 平成15年		
事業の効果等	・物流効率化の支援（重要港湾小名浜港へのアクセス向上が見込まれる） ・生活環境の改善・保全（夜間騒音要請限度を超過している平五色町地区の騒音レベル低下が見込まれる） 他14項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	常磐バイパスは、交通渋滞の緩和や沿道環境の改善に重要な役割を果たすことが期待されており、いわき市長及び北茨城市長、高萩市長で構成される常磐三市長会議より早期整備の要望（平成15年11月10日）を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	【執行済み額】 事業費：840億円（進捗率81%） うち用地費：140億円（進捗率97%）					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	・事業進捗に係る問題はなく、順調に事業を進めている。 ・平成15年度中には、L=1.8kmの4車線供用を予定しており、その他の区間については平成20年代に全線供用を目標に事業推進を図る。					
施設の構造や工法の変更等	長大橋の橋脚などについて、中空断面式を採用し、コスト縮減を図る。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。